

第2回 棟方志功記念館建物利活用意見聴取会議 議事要旨

- 日時 令和7年12月26日（金）14時00分～15時00分
- 場所 リンクモア平安閣市民ホール 1階会議室（1）
- 出席委員（6名） 一般財団法人棟方志功記念館 顕彰推進アドバイザー 池田委員
松原町会 会長 石田委員
学校法人青森山田学園青森大学 副学長 佐々木委員（座長）
一般財団法人棟方志功記念館 理事長 杉本委員
青森商工会議所 常議員
／情報・教育文化部会ワーキンググループ 座長 成田（幾）委員
東青地区中学校教育研究会美術部会 会長
／青森市立造道中学校 校長 三橋委員
- オブザーバー 青森県観光交流推進部観光政策課総務グループ 鷹幸総括主幹

○案件

- （1）棟方志功記念館建物の利活用イメージについて

1 事務局説明

- ・案件（1）について資料に基づき事務局より説明（資料1）

2 委員からの意見

（池田委員）

- ・実際の作品を展示するということであれば、設備に関しては、作品の保存やセキュリティ、室温の管理などの環境づくりをある程度しっかりとやることが前提になる。
- ・庭園に関しては、交流スペースにしたいのであれば、熱海市の澤田政廣記念美術館のように、オープンカフェを設置するというやり方もある。
- ・最近、教育版画が注目されており、全国各地で展覧会が開催されている。青森市が持っている教育版画の資料が一般になかなか紹介されていないので、きちんと調査した上で、展示してはどうか。
- ・運営の形を具体的に考えながら、設備についても考えてもらいたい。本当は青森市が専任の学芸員を配置できればよいが、運営を委託するとしても、受託者が館全体の管理を考えることができる学芸員を配置してもらいたい。

（杉本委員）

- ・作品の展示コーナーについて2階の大展示室を想定しているとのことだが、このスペースのみでは結構狭く、あまりスペースが取れないのではないか。
- ・新しいものと古いものが混ざった展示室（内装）になることを危惧している。予算次第だと思うが、全部きれいにして、スペースを自由に使えるようにしてもらいたい。また、今のガラスケースを残すのであれば、アスベスト除去工事の後に本物の作品を入れることができるような検討をした方がよい。

- ・ワークショップスペースには水回りや道具を置く場所が必要で、現行案では狭く感じる。1階の展示室と入れ替えるという考えがあつてもよいのではないか。
- ・庭園については、旧市民図書館側にある石庭も含め、庭全体の見せ方や整備の行い方を検討した方がよい。

(成田（耕）委員)

- ・館の名称や、庭園について前回提出した意見が反映されており、利活用イメージについて異論はない。
- ・予算も限られるので、優先順位のもと整備していってほしい。
- ・冬期間の通行が難しいのであれば、冬期間は閉鎖し、春からスタートする方法もある。

(三橋委員)

- ・「5つの学び」について、作品と出会い、鑑賞や体験を通して、自分が志功になり、また館に来たいと思う流れになっていて、とても分かりやすい。
- ・新しい施設はとても魅力があり、小学生から中学生まで、校外学習でも活用できるのではないかと思う。学校の先生が子供たちを連れて行ったときに、各学年でどこを見ればよいかなどのガイドが必要だと考える。
- ・教育版画は、画伯が活躍していた時期に取り組まれていたものが多いが、最近は作っているところが少なく、このまま消えてなくなってしまうことを危惧している。これを機会に、記念館の展示スペースでの展示も検討してはどうか。

(石田委員)

- ・彫刻刀を使う小学3年生から施設で充実した体験ができれば、もしかしたら画伯より有名な版画家が生まれるかもしれない、ぜひ進めていってほしい。

(鷹幸オブザーバー)

- ・皆様から頂いた意見を踏まえ、今後何ができるかを財団と協議したい。志功の作品については財団が8割、県が2割を所有しており、展示に際しては、年間の入れ替えも含め相談したい。

(佐々木座長)

- ・「5つの学び」については了承することとした。
- ・今回いただいた意見を整理した上で、次回会議を開催する。